

研究分野のキーワード：哲学・倫理学

研究紹介

科学と哲学の関わりについて

自然科学をはじめとする経験科学の主要な目的のひとつは、われわれが生きるこの世界でつぎつぎに生じるさまざまな出来事の間規則性ないし法則性を見出すことです。この世界では夥おびただしい種類と数量のものどもが、絶え間なく変化してやむことはありません。しかし、それらは、やみくもに変化しているのではなく、その変化には規則性があるものです。たとえば、一年の間に、季節は春夏秋冬という順序で規則的に推移していきます。その季節の推移を調べて正確な暦を作成するために天文学が生まれました。正確な暦は農業には欠かすことができません。

出来事の移り変わりに規則性を見出すことはきわめて重要です。われわれは、熱いものに触れると火傷するということ—つまり、「熱いものに触れる」という出来事の後には、必ず「火傷する」という出来事が伴っているという規則性—を幼児期に習得します。これを習得しているからこそ、われわれは熱いものにむやみに触ることなく、そしてまた、それによって火傷することもなく過ごせているわけです。「経験から学ぶ」とは、このように、次々に変化していく出来事の間規則性を見出すことに他なりません。同様に、経験科学も、それが何を対象とするのであれ、出来事の変化の間に規則性を発見しようとする営みに他ならないのです。

上の例を使って説明すると、「経験から学ぶ」とは、過去に「熱いものに触れる」という出来事を経験した後には、必ず「火傷する」という出来事が生じた、だから、もし仮に、今ここにある熱いもの—たとえば、卓上のロウソクの炎—に触れたとしたならば、私は火傷してしまうだろう、という推論ができるということです。これを一般化して言うと、過去にタイプAの出来事の後には必ずタイプBの出来事が伴っていた、だから、もし仮にいまここでタイプAの出来事が生じれば、それには必ず、タイプBの出来事が伴うであろう、という推論ができるということです。

しかし、ここに大きな問題があります。過去にタイプAの出来事の後にはタイプBの出来事が必ず伴っていたからといって、これからの未来に起こるタイプAの出来事にも同じようにタイプBの出来事が伴うと、どうして言えるのでしょうか？ 過去と未来が同じようになっているとどうして言えるのでしょうか？ 過去と未来は同じようになっているということを経験科学が示すことは決してできません。なぜならば、われわれが知りうるのは過去だけであって、未来はまだ到来していないのだから。にもかかわらず、われわれは過去と未来が同じであると強固に信じている。そして、この強固な信念がないと、自然科学を含む全ての経験科学が成立しない。経験科学の成立は、それが証明しえない前提—過去と未来は同じだという前提—に依拠しているということが、こうして哲学的に明らかになるわけです。